

パレンバンのグルハナ・マタハリ

辻村 幸子

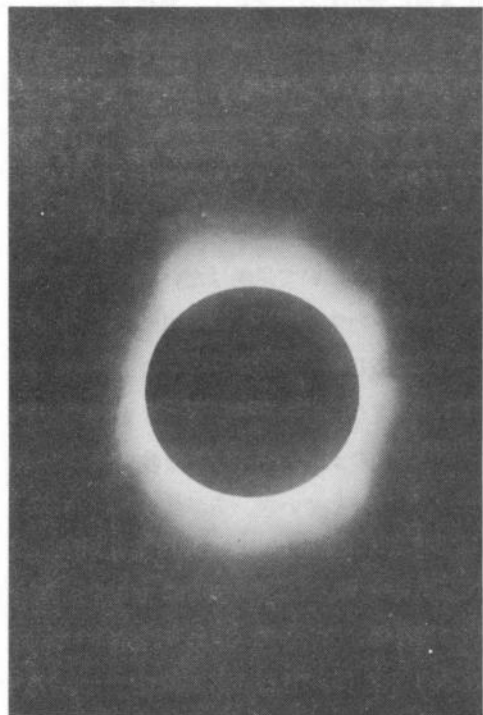
日本から遠い、お金がかかる、時間もかかる、天候がよくない、太陽高度が低いといった悪条件をものともしない一行20名は、16日成田を出発、ジャカルタに1泊し、17日午後パレンバンへ到着、すぐに観測地のサッカー場へ下見に行きました。場所も広く視界もよいのですが、赤土で水の流れた跡があり雨が降ったらどろどろになりそうな所です。天気も青空が見えるものの雲が多く太陽が見えかくれするといった具合です。ホテルに屋上があるのでそこも見学します。視界はいいのですが少し狭いようなので2班に分かれることにし、私はサッカー場へ行くことにしました。というように相談をしているうちに雲が厚くなってきて、雨がポツポツと降ってきました。さて、寝ようかという頃にはものすごいスコールです。明日の天気は、足場はだいじょうぶかしら、スコールの雨はそう長くは続かないけれど……。

翌18日4時、外へ出ると星が見えます。ルンルンしてバスに乗りこみサッカー場へ向かいます。が、前日の場所は足場が悪いので違う場所へ行くはずが道に迷ってしまい、やっとのことで目的地のサッカー場へ着きました。地面には草が一面に生えていて足場はだいじょうぶです。空には満天の星、さそり、いて、天の川など。しかし、東の空が白み始める頃からもやのような雲が出てきて、第1接触はNDフィルターがいらぬんじゃないかという状態です。不安のうちに食は進みます。それにつれて雲が薄くなっているようですが晴れる気配はまったくありません。そのうちに人がだんだん集まってきました。警察官のような人が多いと思ったらここは警察のサッカー場だそうです。鎌のような太陽の西端が縮んでいき、空が日食時特有の暗い空になります。細い太陽が光を失うにつれ、反対側からコロナがすーっと現れてきます。まわりのどよめきが大きくなり拍手がおこります。2つの大きなプロミネンスが目にとびこんできました。しかも対角線上にコロナの流線模様も薄雲を通してうっすらと見えます。夢中でカメラのシャッターを切り、双眼鏡をのぞきます。右上の方がしだいに明るくなってゆき、小さな光の粒がころころころがるように広がってゆきます。つと1点の光が強くなり、カメラのファインダーから目を離すと、コロナと光の見事な指輪が天にかかっています。光が明るくなるにつれ、コロナがしだいにのみこまれるように消えてゆきます。コロナが消えまわりが明るくなると天には細い太陽がありました。しばらくは何もできずにただぼーっとしていました。太陽が元に戻るにつれ薄雲は消えていきますが、積雲がふえ太陽を隠すようになり、第4接触は雲の中でした。

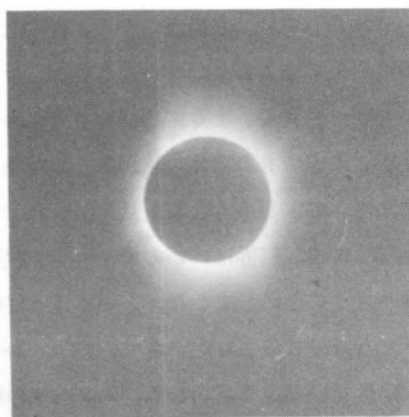
ホテルで観測していた人たちも薄雲を通してですがコロナが見られ、一同残りの旅行を楽しみました。パレンバンの人たちは陽気で明るくて、気さくに話しかけてきます。パダールでは売っている物を説明してくれたり、魚を目の前でおろしてくれたり、町を歩けば「ハロー」空港で待っている間もたくさんの人とおしゃべりをして、けっしてたいくつしませんでした。

最後に帰国後、母親の第一声「おまえって、ほんとに運が強いね。」

スマトラのコロナ

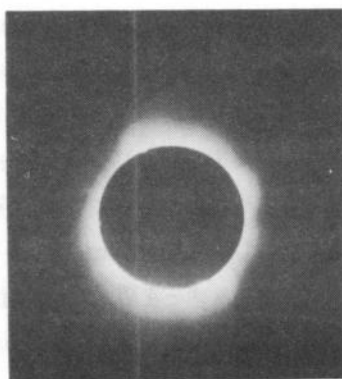


(株) ビクセン



鈴木 治夫

ペンタックス F8 400mm



辻村 幸子

7h29m33Sくらい(ローカルタイム)

ペンタックスLX SMCペンタックス500mmF5.6

F8 1/60秒 コニカカラー-GX-100